令和５年度 学校便り　**藍志（あいし）**　第４号
令和５年（２０２３年）７月２０日
発 行 者：藍住中学校　西山伸二

コミュニティ・スクールと「藍」

本校コミュニティ・スクールでは「地域と共にある学校」を目指し、学校から地域に出向き、「顔の見える関係づくり」を大切にしています。今回は、「藍」をキーワードに町内の関係者の方々とお会いしました。まず、藍住町社会教育課の重見さんから藍住町の「藍」に関わる歴史と、藍住町がストーリーとしての日本遺産に登録されていることについてお話を伺いました。歴史を紐解いてみると、藍住町は“すくも”を用いた染料で大きな財をなし、勝瑞城や阿波踊りにも深く関わっていることや、日本以外でも藍染めはありますが、優れた染料（特にすくも）は今も昔も徳島（阿波）が占めているそうです。藍住町ではこの「藍」をもう一度まちの誇りにしようと，「地域おこし協力隊」や「一般社団法人しじゅうはちがん」との協働により、「藍」文化の発展や普及啓発の取組が進められているところで、是非，小中学生にもこの取組に参画してほしいと熱心に語られた姿が印象的でした。この後、「藍の館」の森館長にもお会いし、「藍」にかける町の人々の熱い思いを感じました。藍中生は小学校の時、ほとんど全員が藍を育てるところから始め、藍染めを体験しています。このような貴重な体験ができている中学生は全国的にも非常に稀だと思います。藍中生のみなさんが「藍」の歴史について深く学び、地域の方たちと共に日本遺産としての「藍」を世界に発信できる取組を進めていきたいと考えています。

コミュニティ・スクール～西部児童館夏まつりに参加して～

７／１５（土）に西部児童館夏まつりが開催され，本校から７名の生徒がボランティアとして参加しました。ここに参加生徒の感想を紹介します。

私は今回，初めてボランティアとして参加しました。今まではお客さんとして楽しむだけだったけれど，今回ボランティアとして小さな子どもたちと接してみて，先生方の大変さを身にしみて感じました。大変だったことは，小さな子が相手なので，私が，「これだけ説明すれば大丈夫だろう。」と思っても，少し説明が足りなかったりすると，私が思ってもみなかった行動をすることです。丁寧に説明する大切さを感じました。また，お客さんが多いときは，少しでも気を抜くとすぐに行列ができてしまい，対応が間に合わなかったり，急いでするとしなければいけない作業をとばしてしまったり，たくさん反省点がありました。普段，なかなかできない貴重な体験をすることができました。

「地域と共に子どもを育てる」という視点のまちぐるみの取組は，予測不能な未来を生きる今の子どもたちに大きな力を与えてくれるのだと感じます。サポートしてくださった地域の方々，ありがとうございました。

尊い姿～大会の縁の下の力持ち～

７／１５（土）にポカリスワットスタジアムで行われた徳島県中学校通信陸上大会でのことです。選手を含め，藍中生が競技役員として朝から夕方まで当番で顧問の先生と共に一日中炎天下のグランドでスタート地点のお世話をしていました。活躍する選手の姿には注目をしますが，それを支えているスタッフの献身的な尊い姿があることを忘れてはならないと強く感じた大会でした。

台湾訪日音楽交流事業～笑顔は万国共通～

７／１９（水）の放課後，不思議な縁から台湾の台北市長安中学校並びに東門小学校と本校吹奏楽部の音楽交流事業が合同教室で行われました。驚いたのは何の打ち合わせもない中での班別交流で、吹奏楽部のみなさんが自分から積極的に話しかけ、コミュニケーションをとり，お互いが笑顔で話す姿でした。スタッフの方からは，「笑顔は万国共通ですね。」と教えて頂き，笑顔の魅力を再認識しました。ほんのわずかな時間でしたが、台湾の生徒さん、藍中生の双方にとって一生思い出に残るても素敵な時間でした。また，美術部の皆さんが台湾に関わるイラストを描いて美術室に掲示を行うなど，「おもてなし」の温かい心を届けることができたのではないかと思います。中学生のみなさんの秘めた力に驚くと共に，チャレンジすることで自分自身の世界を広げる姿をとても心強く感じました。